

静かだが、着実に進む
世界の変化

2019年5月24日

目次

【人口】

- 地域別の人口推移
- 地域別人口比率の推移
- 先進国と途上国の人口比率
- 人口大国の人口推移

【GDP】

- 主要国のGDP（現行為替レート／購買力平価）
- 主要国GDPの世界に占める割合（現行為替レート／購買力平価）
- 途上国と先進国の世界に占める比率（現行為替レート／購買力平価）
- 途上国のGDP（現行為替レート／購買力平価）
- 途上国の世界に占める割合（現行為替レート／購買力平価）

【GDP/人】

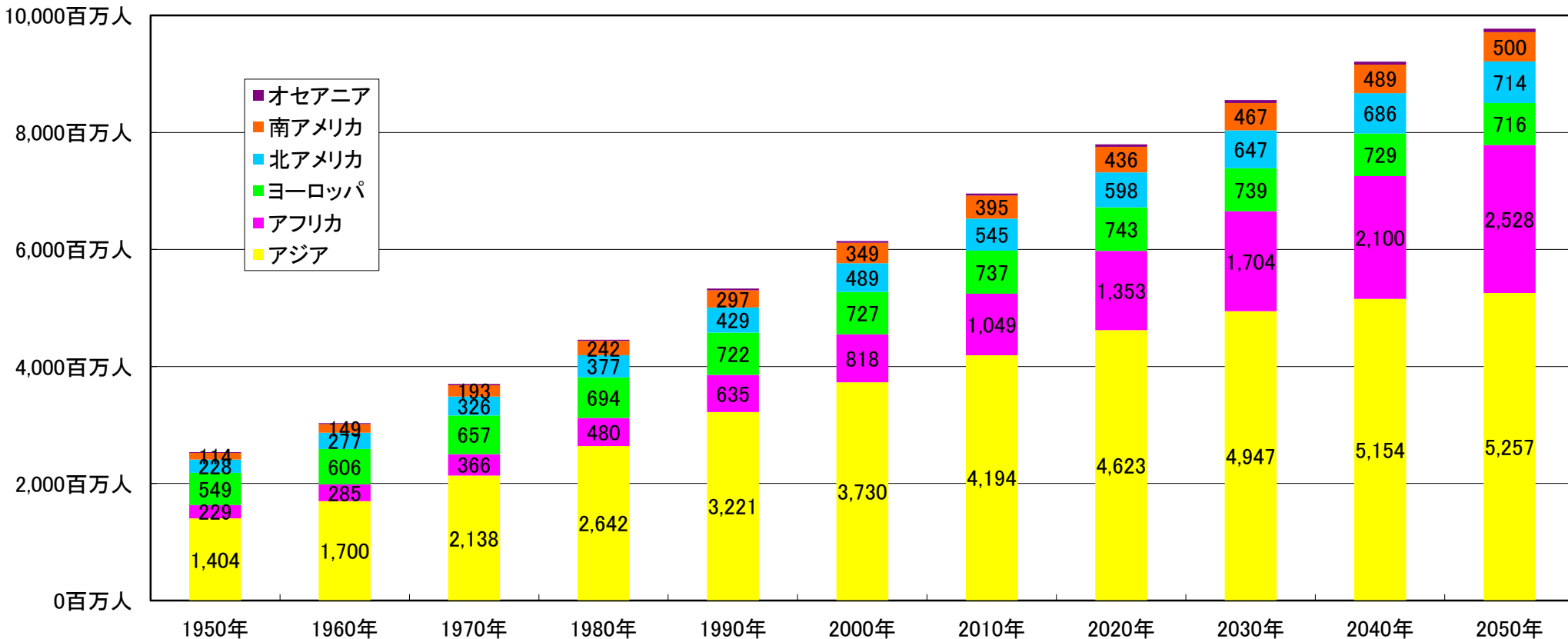
- 先進国地域のGDP/人（現行為替レート／購買力平価）
- 途上国地域のGDP/人（現行為替レート／購買力平価）
- 主要国GDP/人の世界平均との比較（現行為替レート）
- 途上国地域GDP/人の世界平均との比較（現行為替レート）

【国の数】

- 国連加盟国数の推移

地域別の人口推移

世界の地域人口の推移

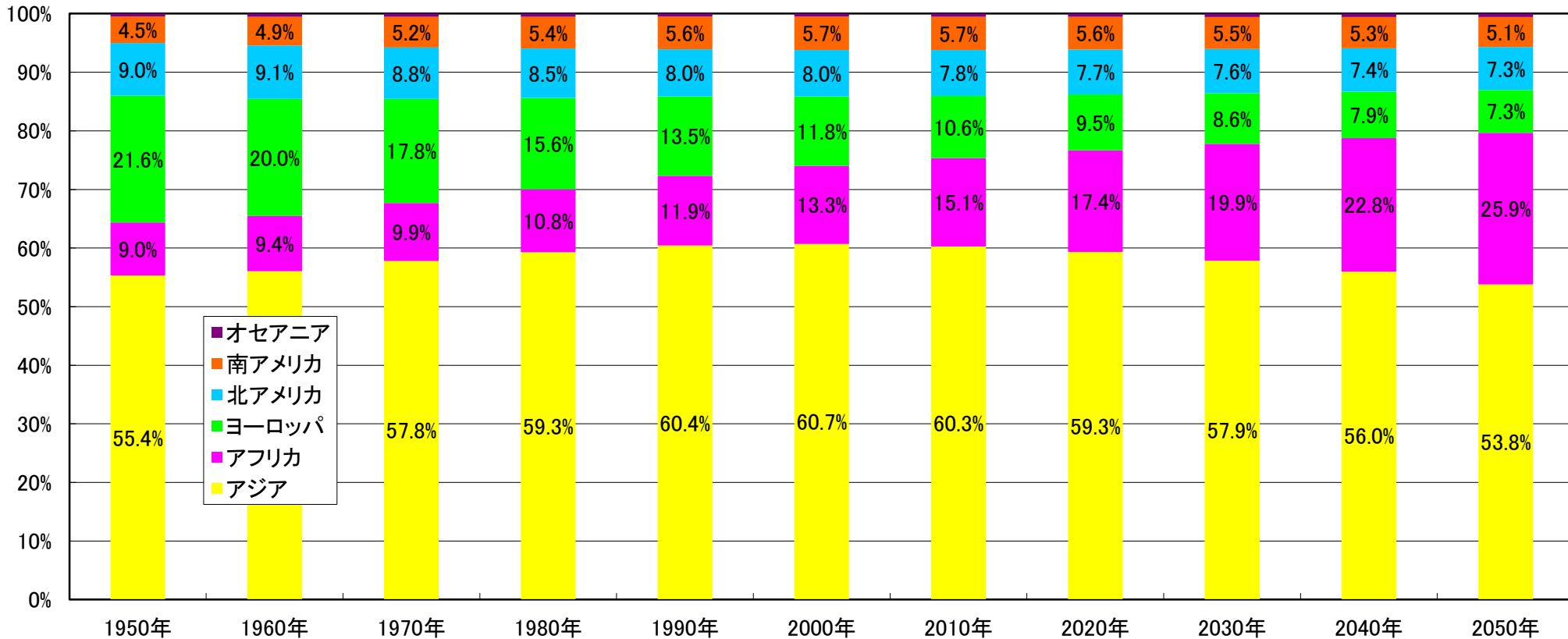


《出典》総務省統計局：世界の統計2019

<https://www.stat.go.jp/data/sekai/0116.html>

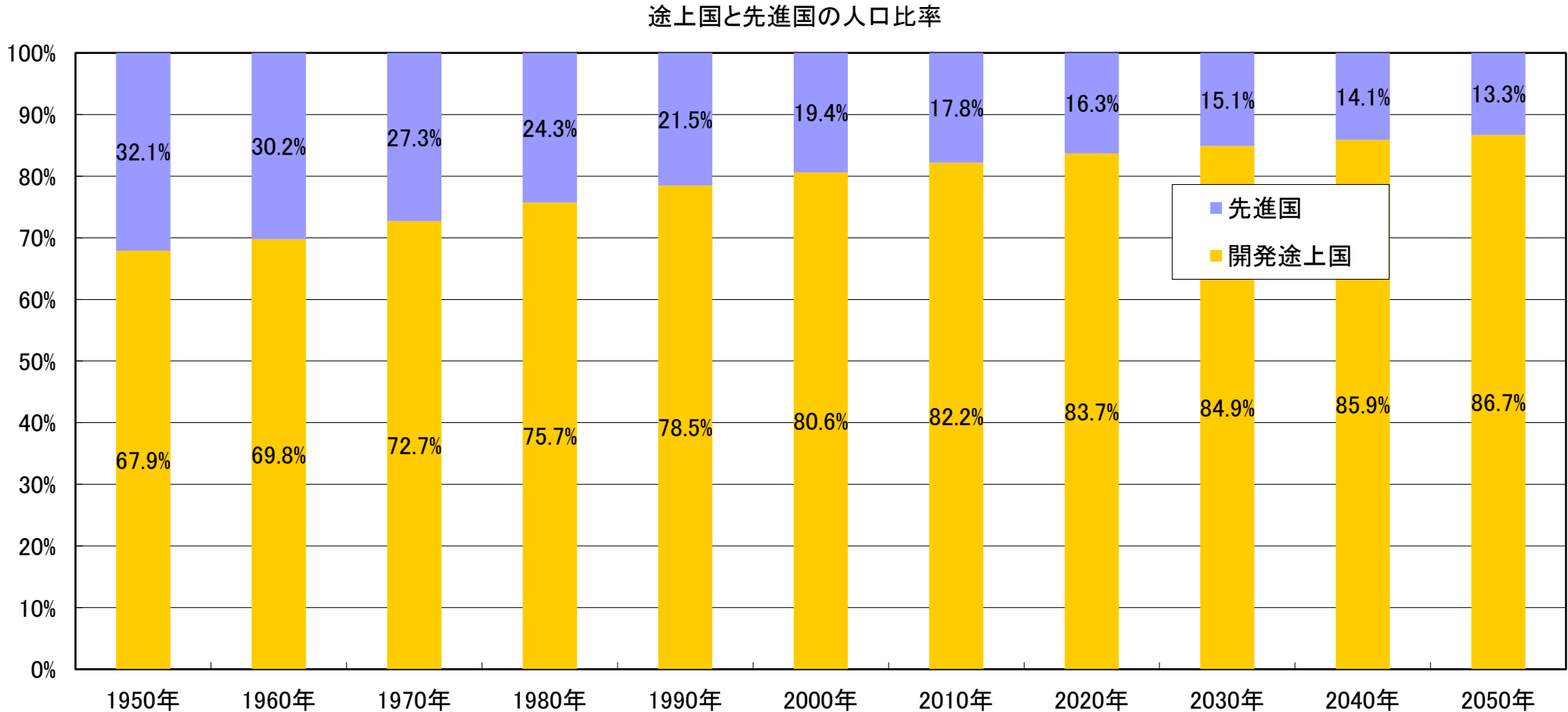
地域別人口比率の推移

世界の地域別人口比率



アジアとアフリカの人口が優勢になる。北米は微減。

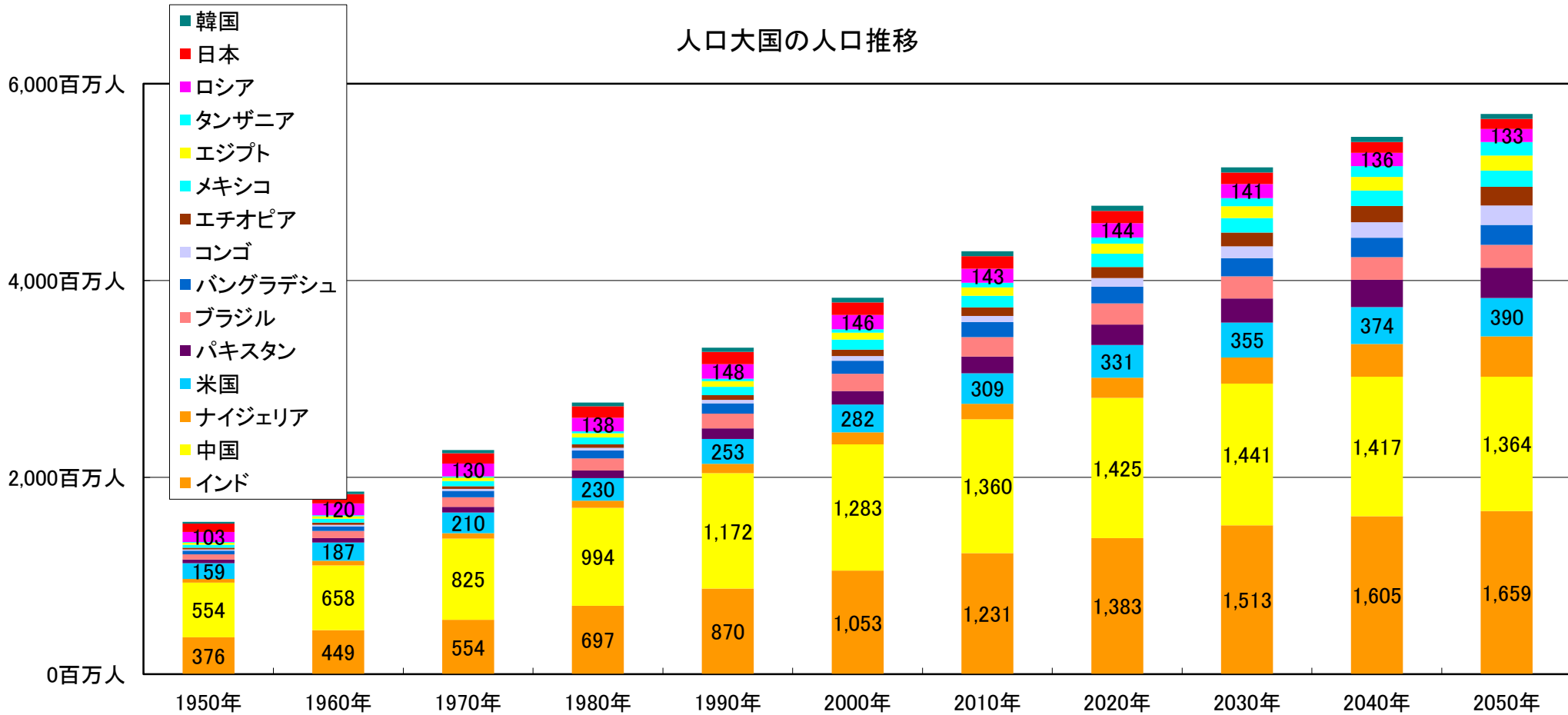
先進国と途上国の人口比率



先進国の人口比率は、100年で、32.1%から13.3%にまでさがらる。

人口大国の人口推移

人口大国の人口推移



インド、中国が人口大国。米国、ロシアの人口は3億人台、1億人台。

つぶやき

地球上で最も獰猛な生き物は人類であるという説もある。アフリカで生まれたと考えられている人類は世界中に広がった。採取生活⇒農業の発明⇒産業革命と進み、人口も爆発的に増えた。このまま人口が増加すれば、水は大丈夫か？食料は？エネルギーは持つのか？など、基本的な疑問が呈せられている。でも、増え続けることを止める仕組みは今のところ無い。マルサスの『人口の原理』がかつて批判されたこともあった。しかし、人口問題は、それを越えて世界の基本的な問題になっている。

総務省のHPに掲示されている統計情報をもとに、資料を作ってみた。

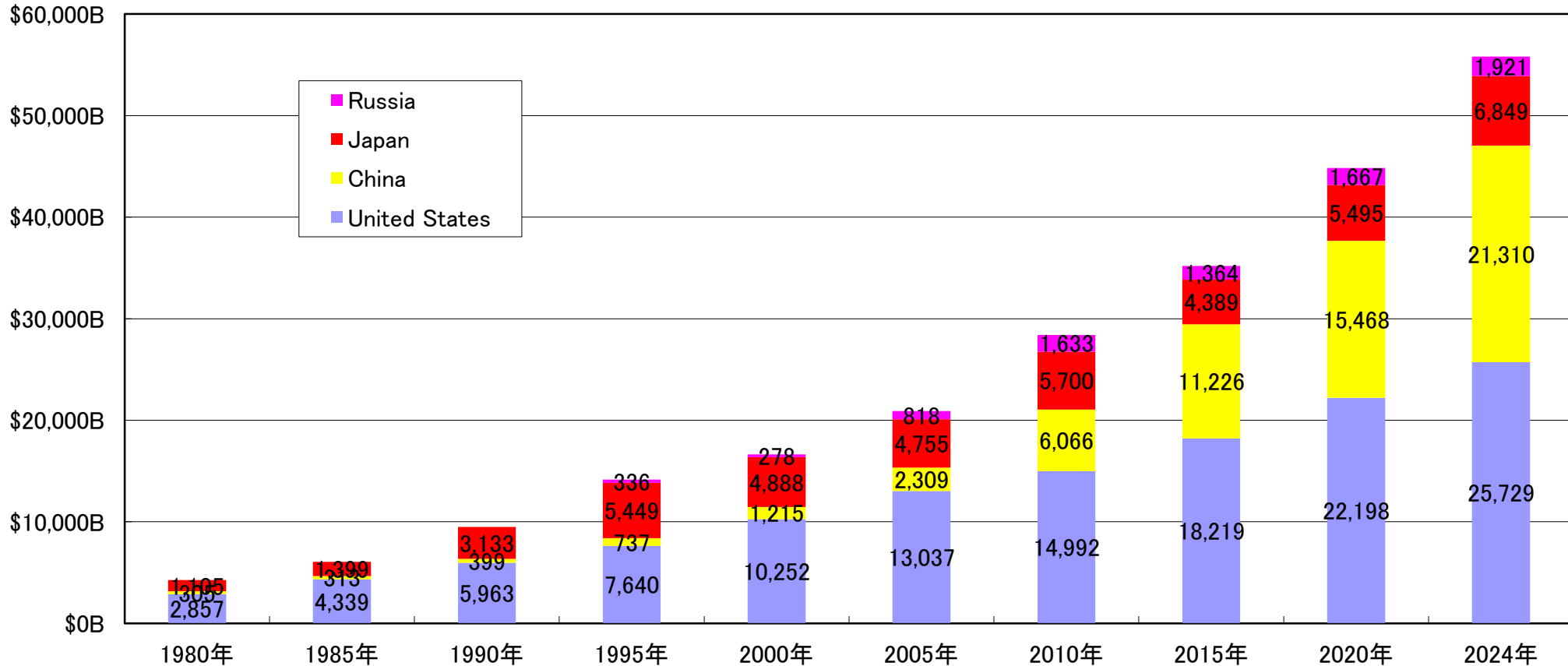
(1)日本を含めて先進国では少子化が進み人口減少社会に入っている。途上国では多産の傾向が続いている。そのため、先進国の人口比率が減り、途上国の人口比率が増えると予測されている。特に、アジアとアフリカの人口比率が増え、21世紀はアジアの時代になる。

(2)国別に見ると、中国が一人っ子政策の失敗で人口が減ることが確実になった。米国はトランプが移民制限をしているが、移民を受け入れて人口を増加させ、労働者確保をして米国は伸びてきた。トランプは自殺行為をしている？ロシアは人口を微減させると予測されている。

主要国のGDP

現行為替レートGDP

主要国のGDP



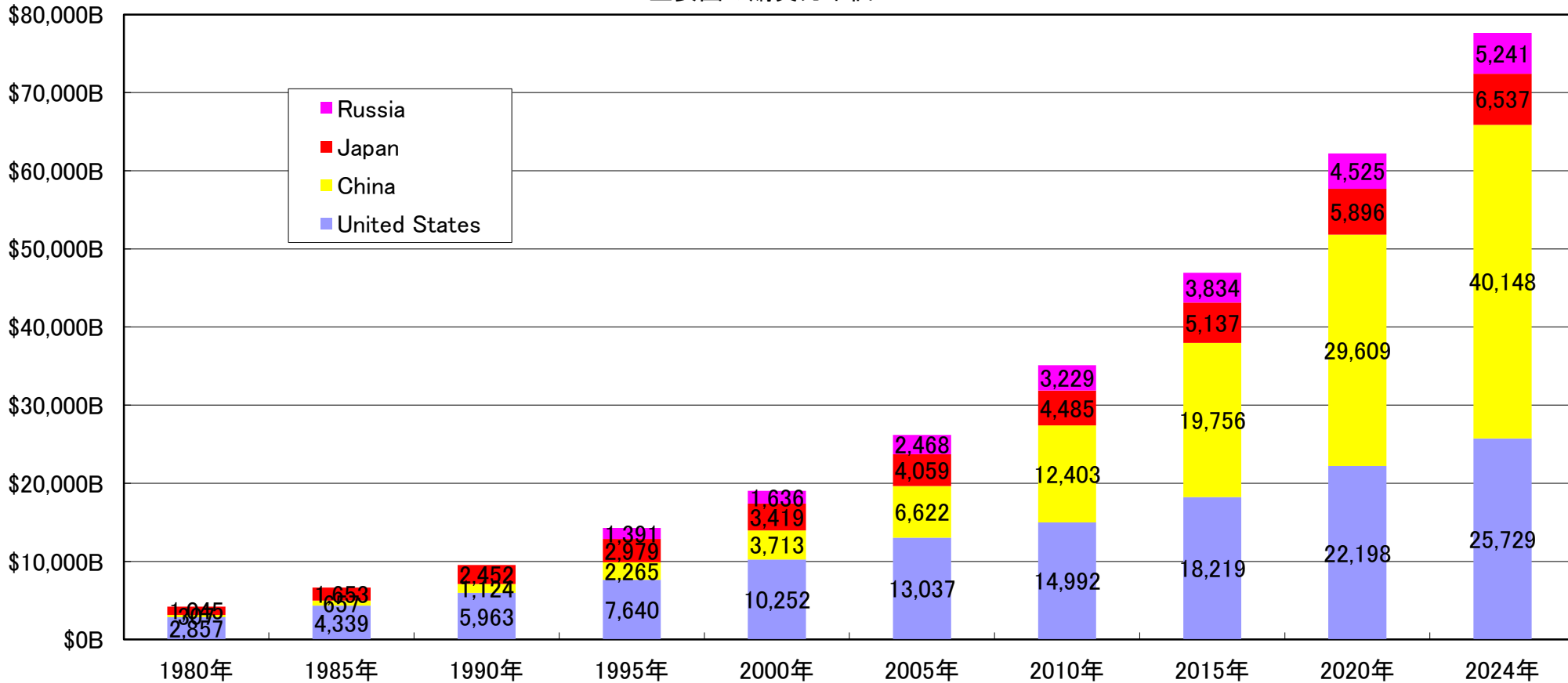
《出典》IMF WEO DB April. 2019

<https://www.imf.org/external/pubs/ft/weo/2019/01/weodata/index.aspx>

主要国のGDP

購買力平価GDP

主要国の購買力平価GDP

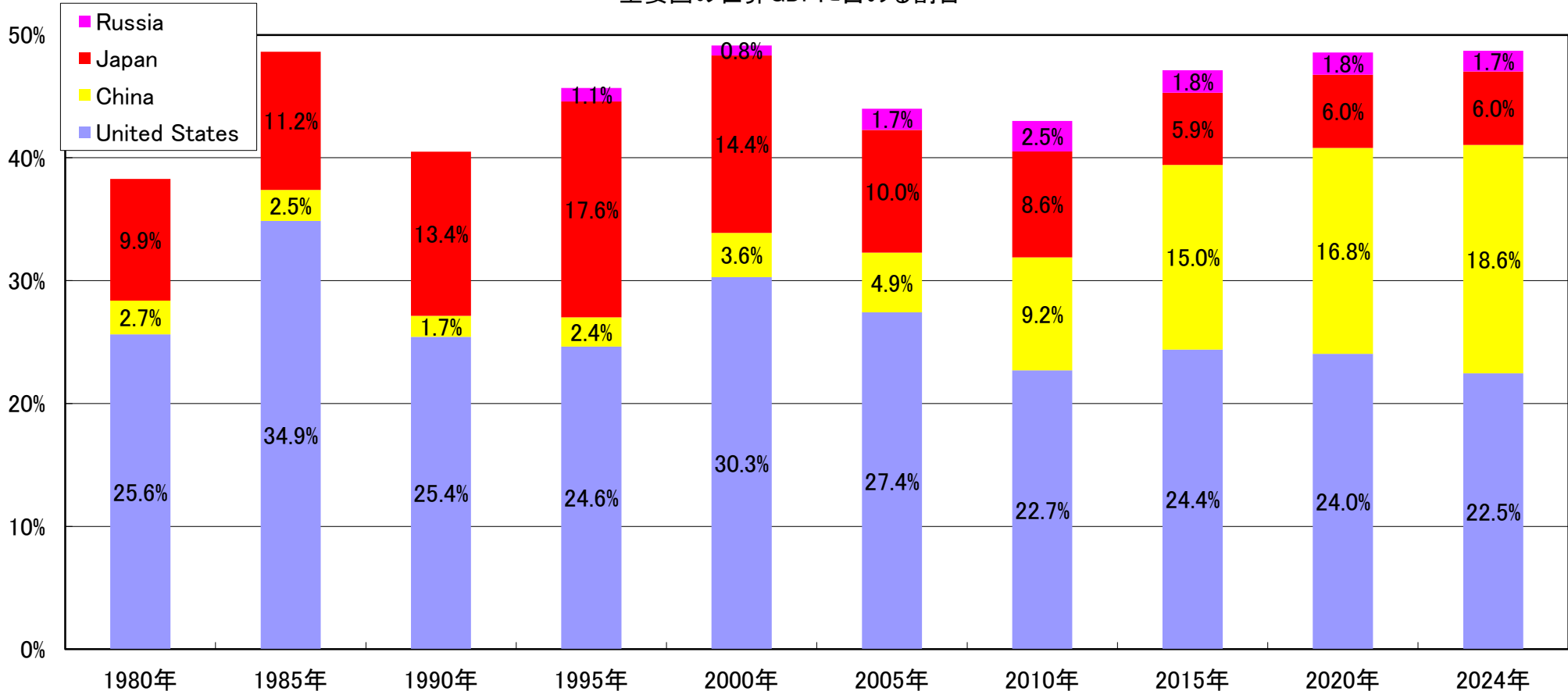


購買力平価GDPでは、すでに中国が米国を追い抜いている。

主要国GDPの世界に占める割合

現行為替レートGDP

主要国の世界GDPに占める割合

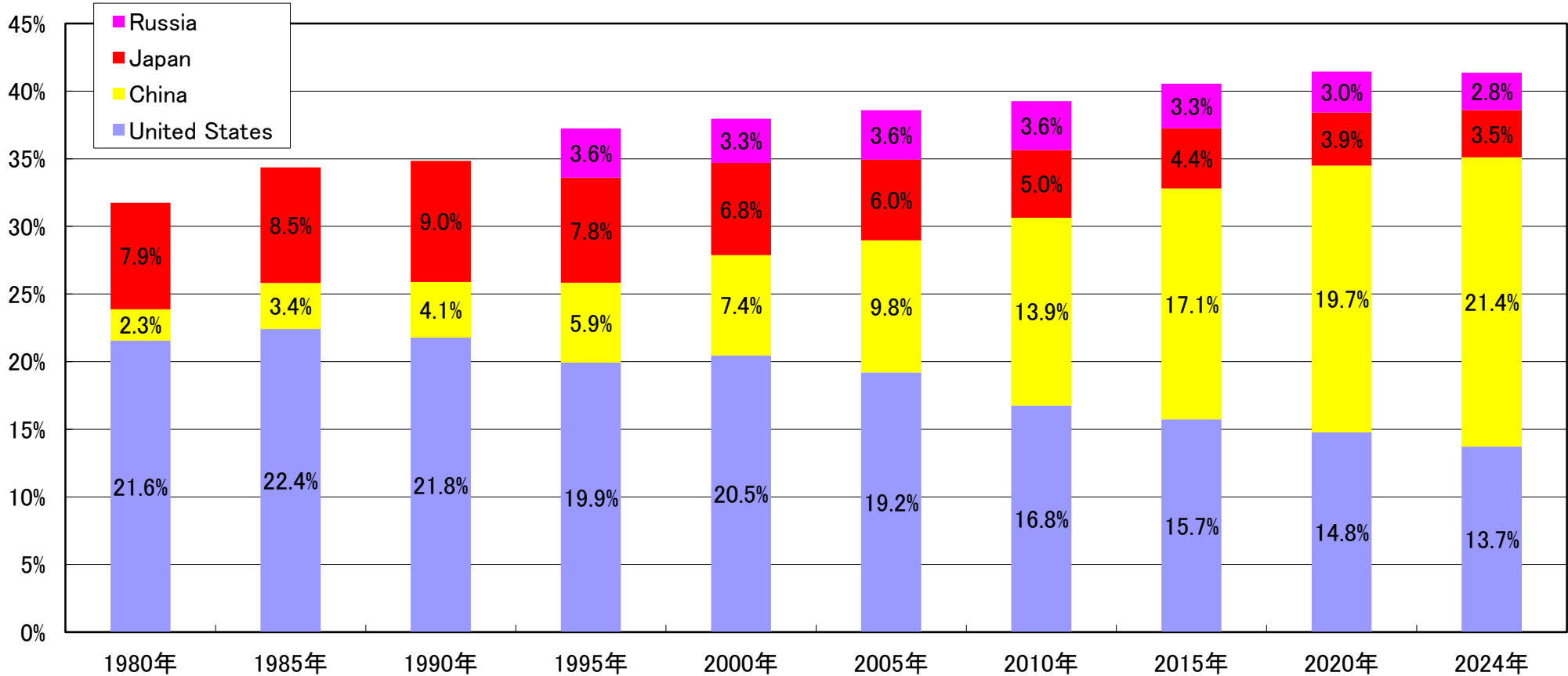


米国は1985年に35%を占めていたのに、2024年には22.5%にさがるだろう。
代わって、比率を上げるのが中国。

主要国GDPの世界に占める割合

購買力平価GDP

主要国の購買力平価GDPの世界に占める割合

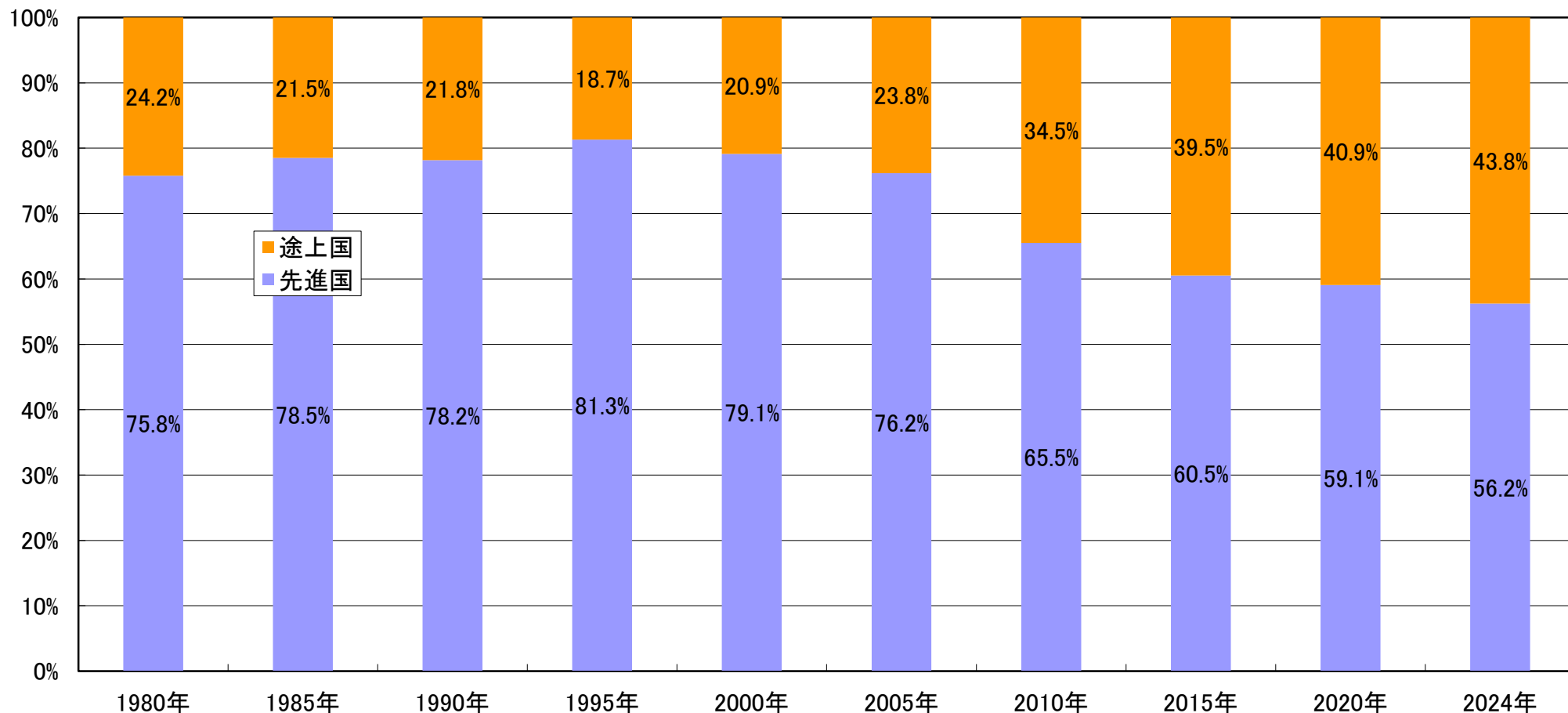


購買力平価GDPでは、すでに中国が米国を追い抜いている。

途上国と先進国の世界に占める比率

現行為替レートGDP

先進国と途上国の世界GDPに占める割合

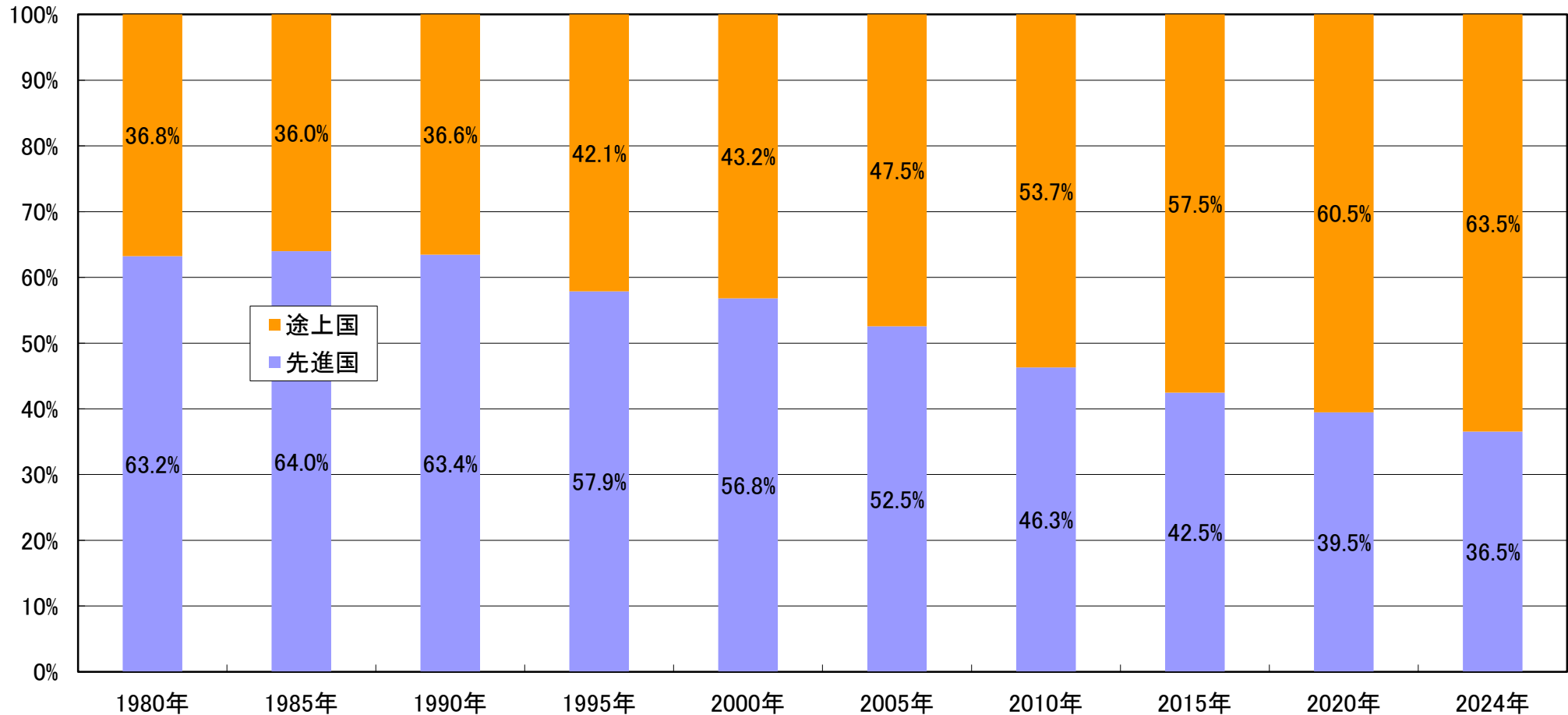


2010年ごろから比率が変わり始めた。2024年には先進国56%、途上国44%になる

途上国と先進国の世界に占める比率

購買力平価GDP

先進国と途上国の世界購買力平価GDPに占める割合

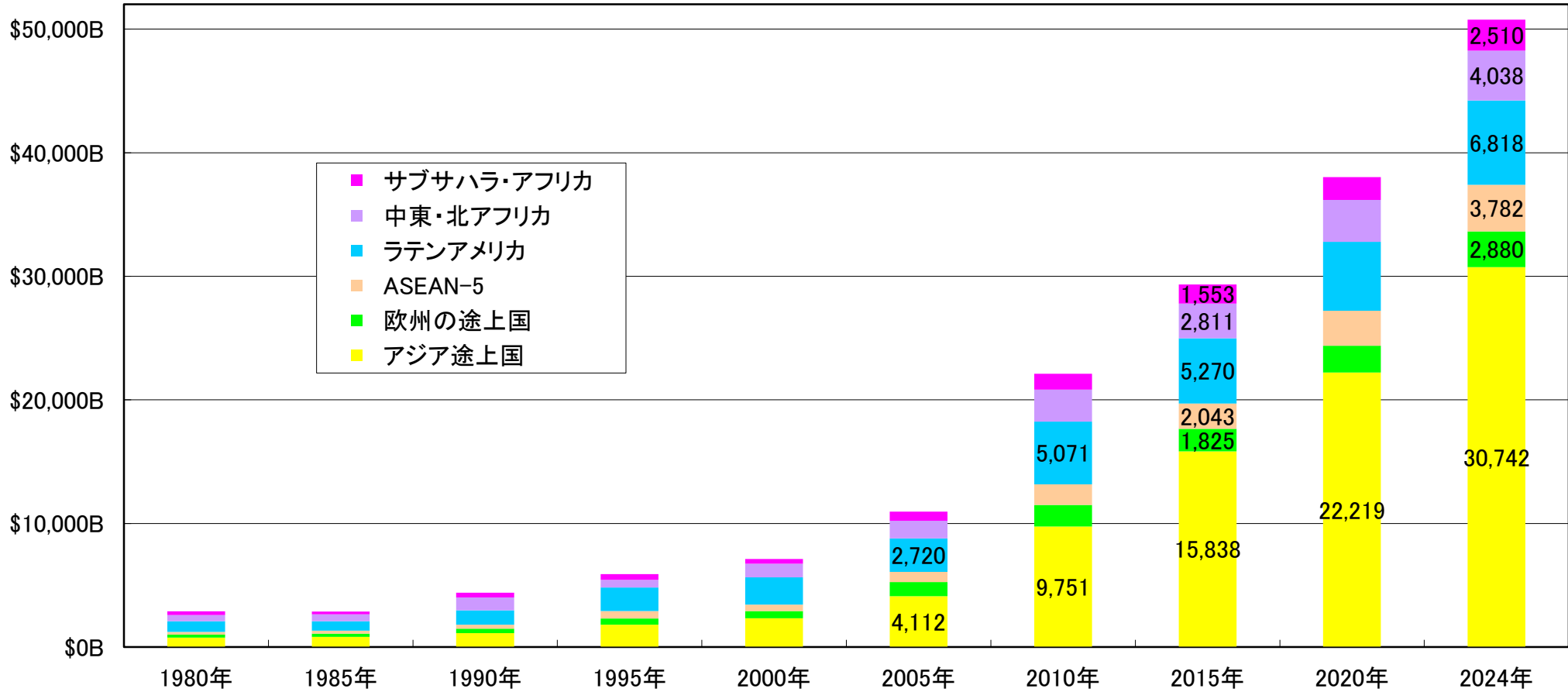


購買力平価GDPでは、2010年以降、途上国が先進国を上回っている。

途上国のGDP

現行為替レートGDP

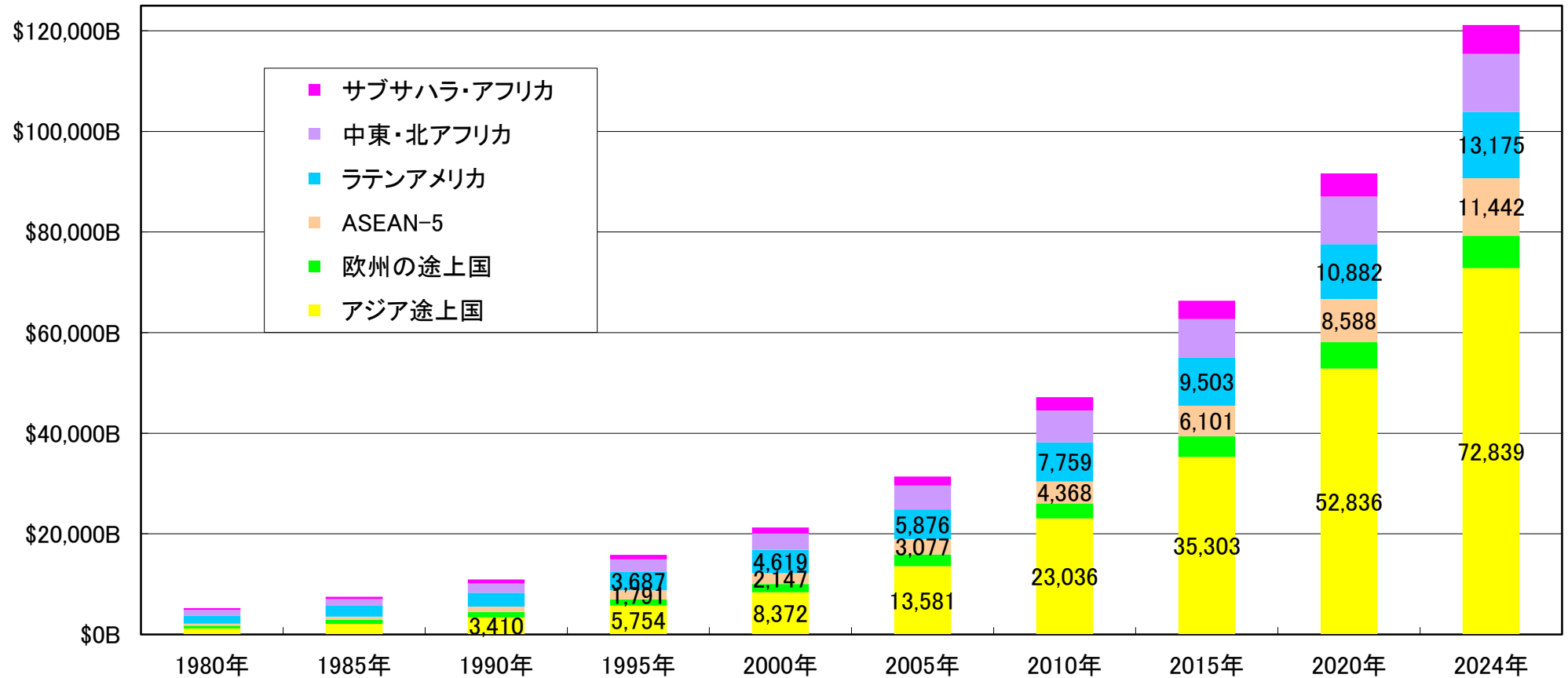
途上国地域のGDP



途上国のGDP

購買力平価GDP

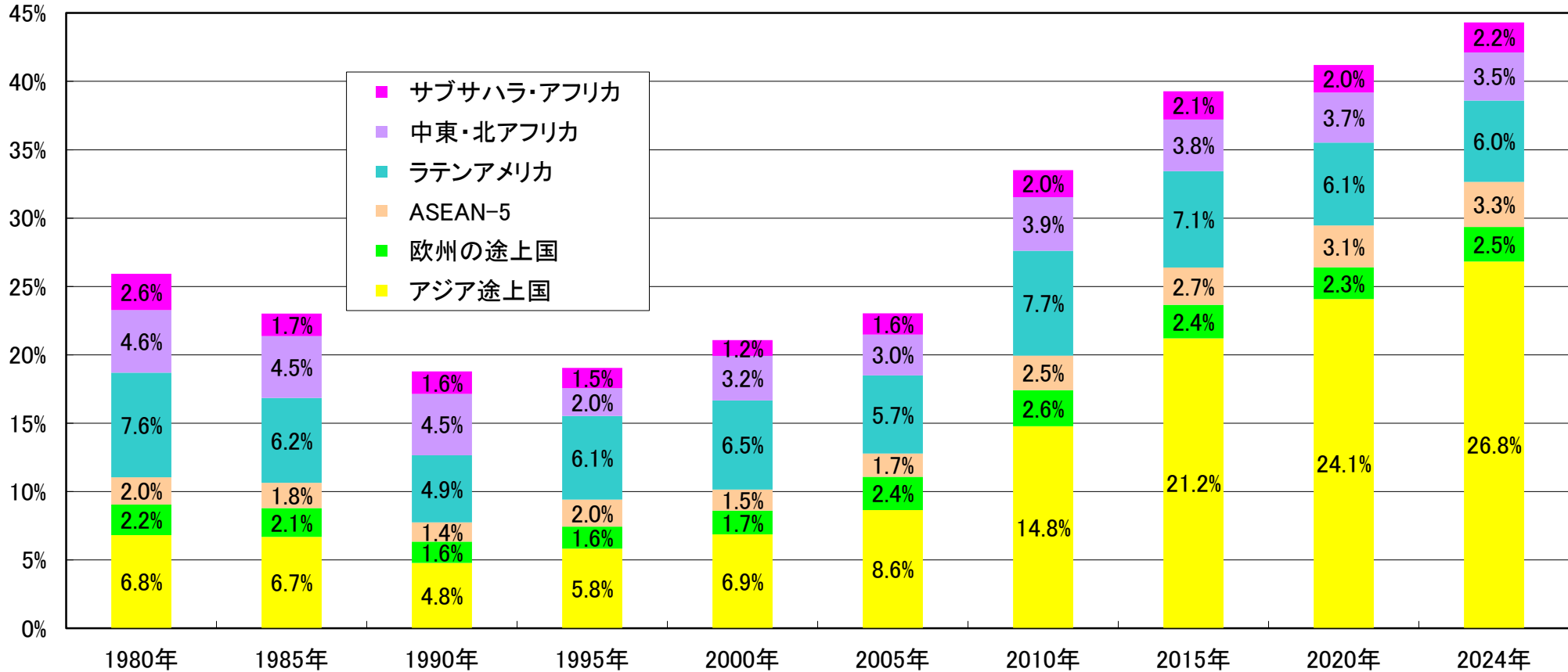
途上国地域の購買力平価GDP



途上国の世界に占める割合

現行為替レートGDP

途上国の世界GDPに占める割合

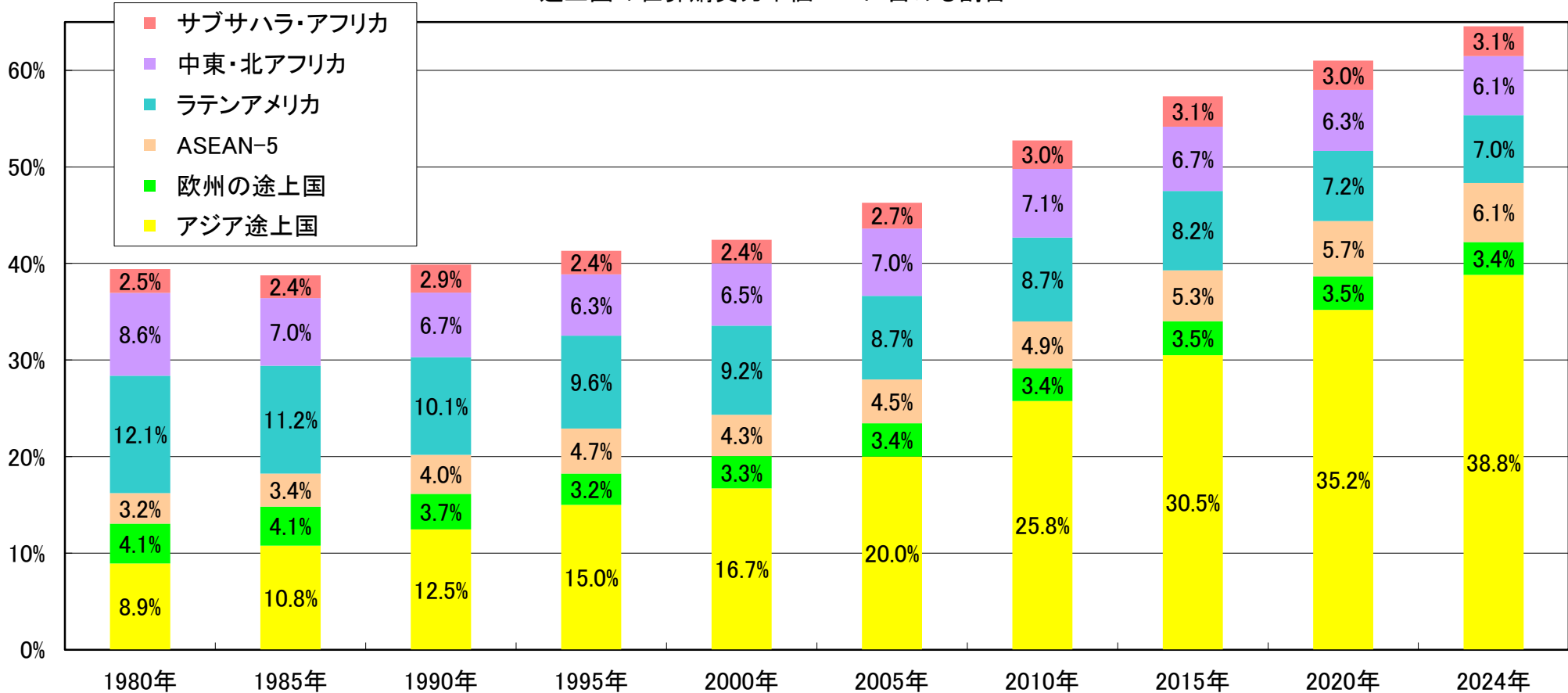


アジアの途上国のGDP比率が2024年には、26.8%に達するだろう。

途上国の世界に占める割合

購買力平価GDP

途上国の世界購買力平価GDPに占める割合

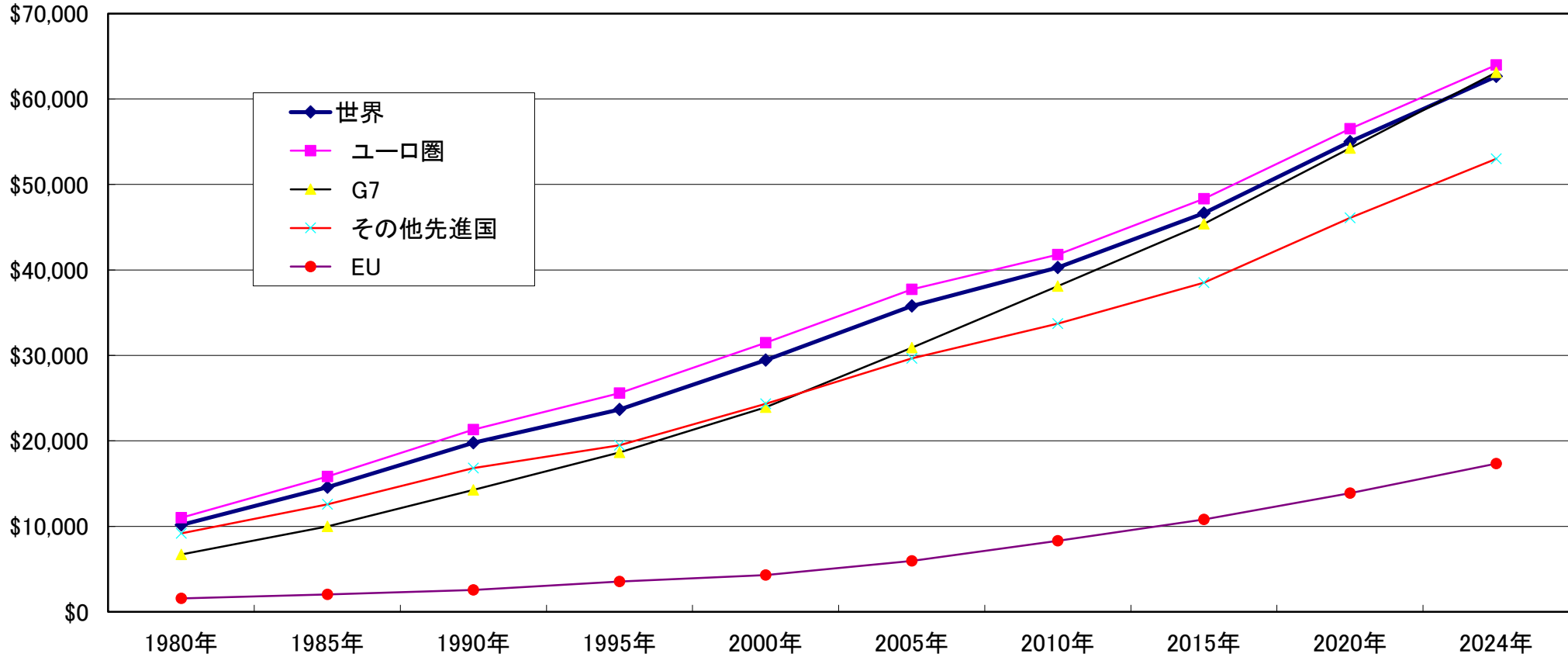


購買力平価GDPでは、アジアが30%を超える割合を占め、2014年には39%に近づく勢いだ。

先進国地域のGDP/人

現行為替レートGDP

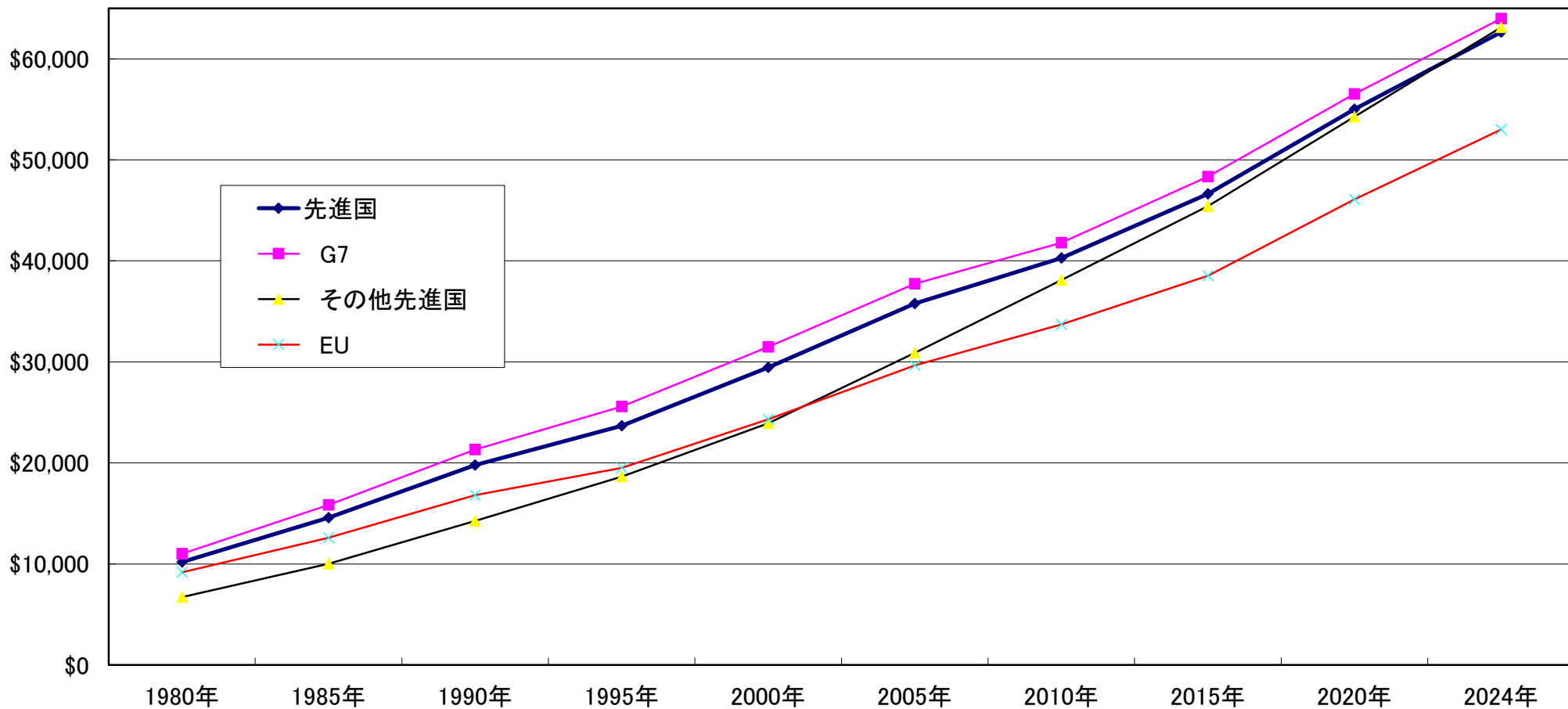
先進国地域のGDP/人



先進国地域のGDP/人

購買力平価GDP/人

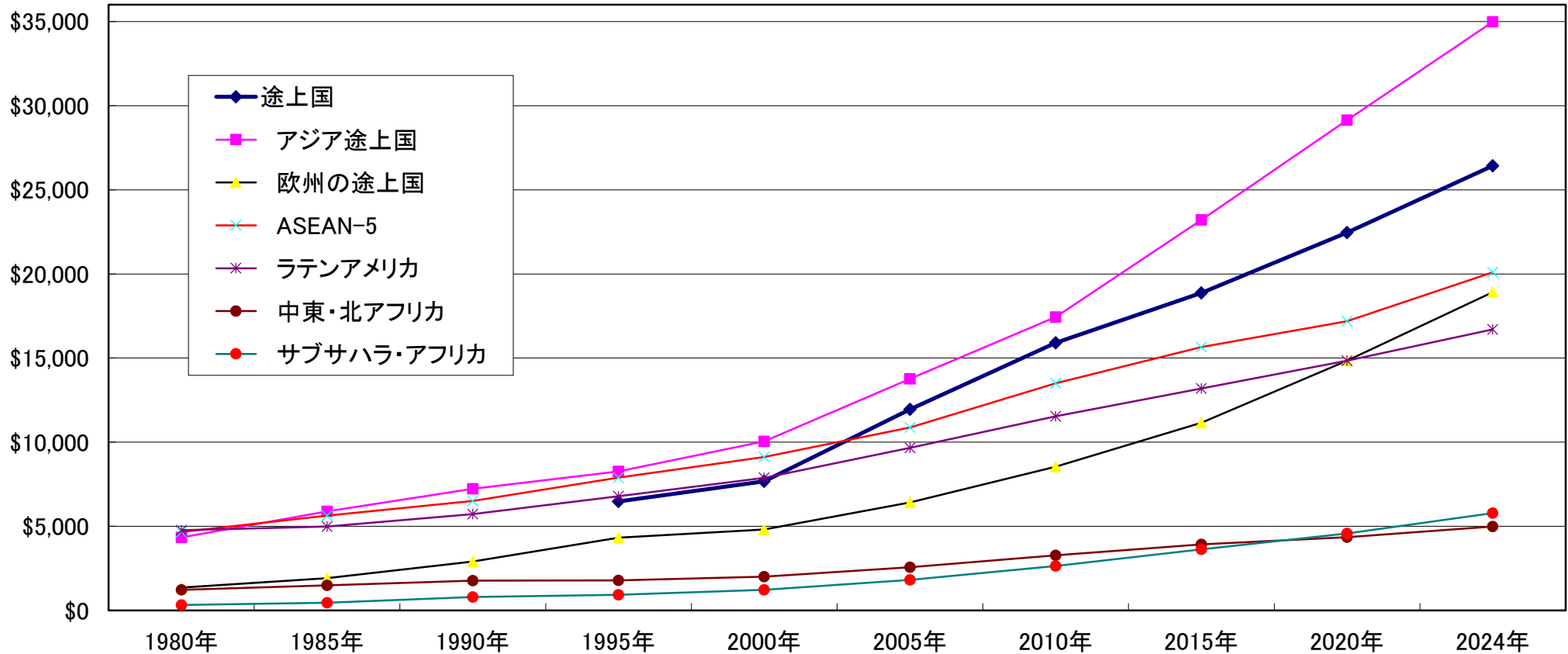
先進国の購買力平価GDP/人



途上国地域のGDP/人

現行為替レートGDP

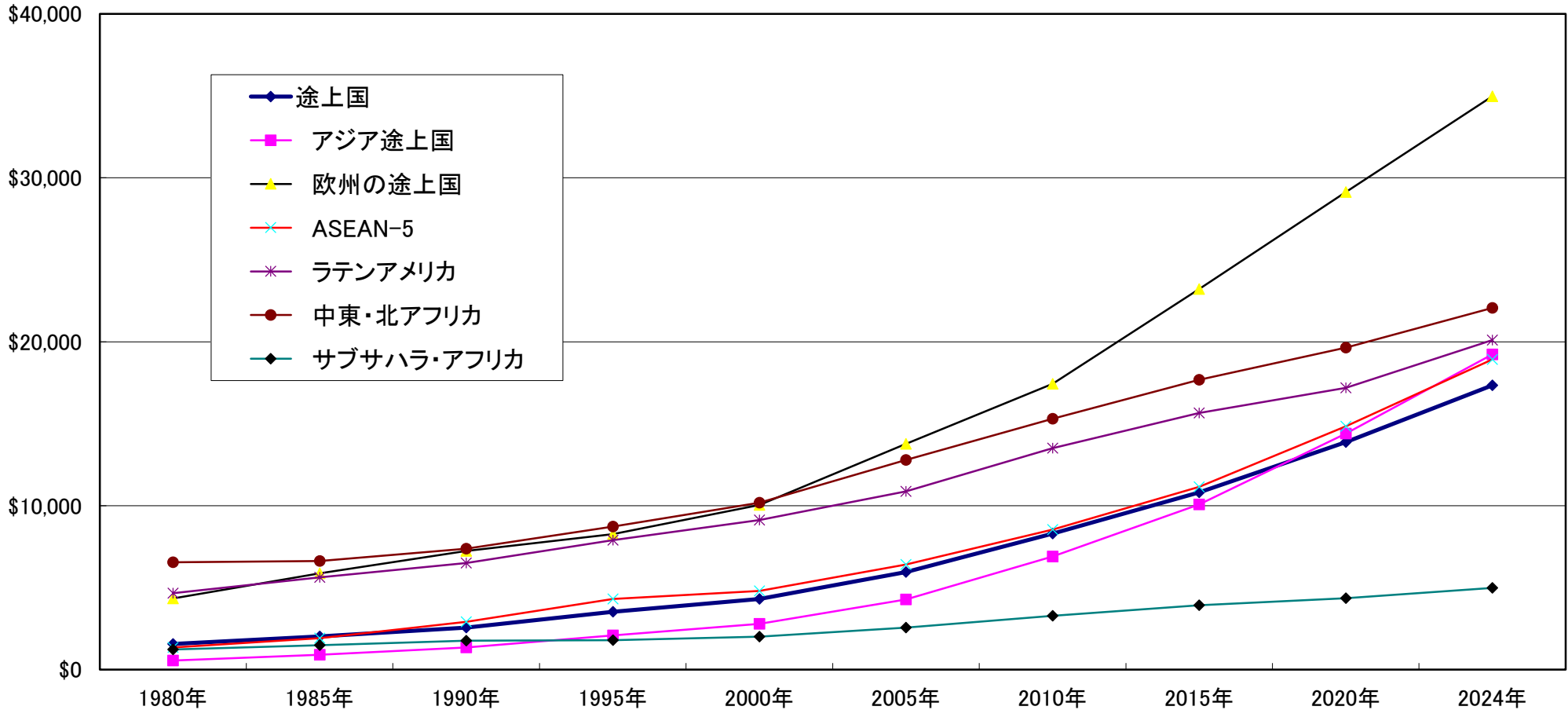
途上国地域のGDP/人



途上国地域のGDP/人

購買力平価GDP/人

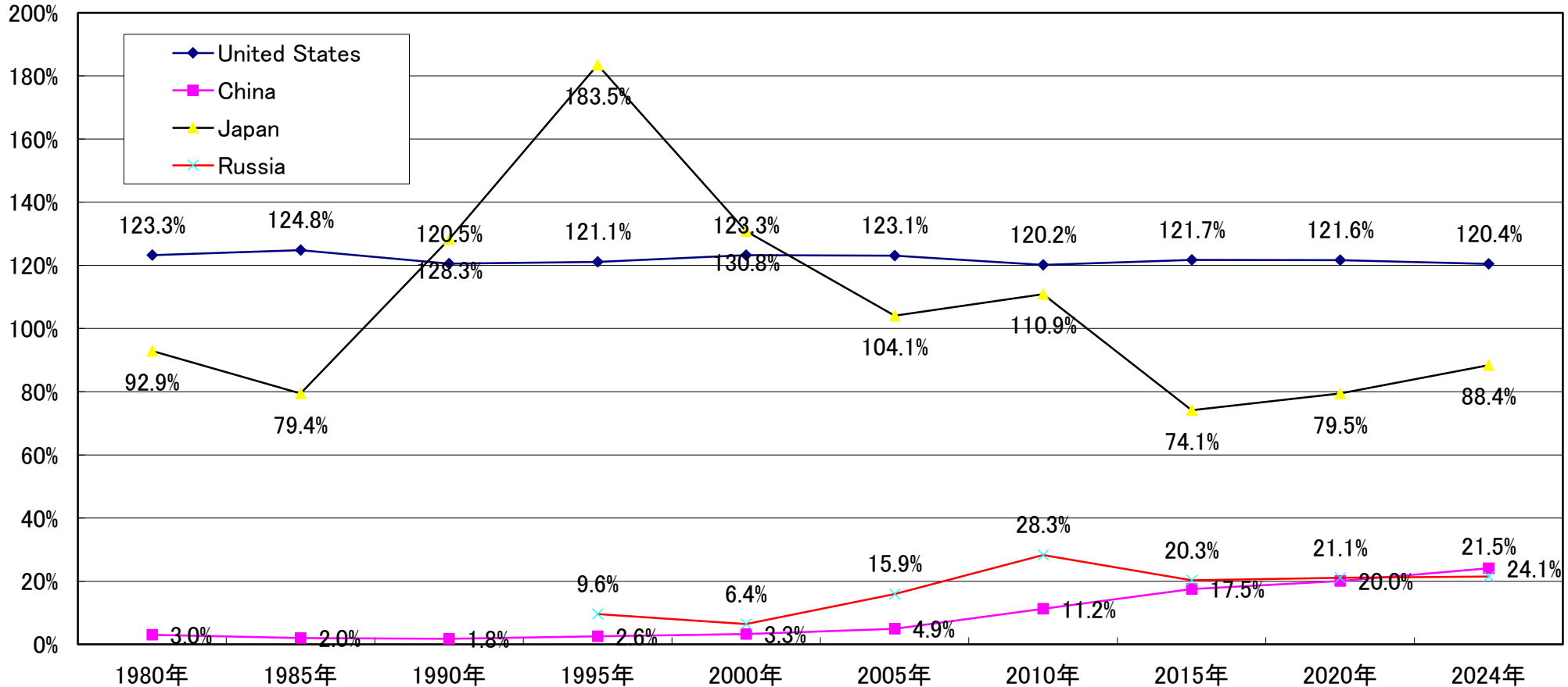
途上国の購買力平価GDP/人



主要国GDP/人の世界平均との比較

現行為替レートGDP

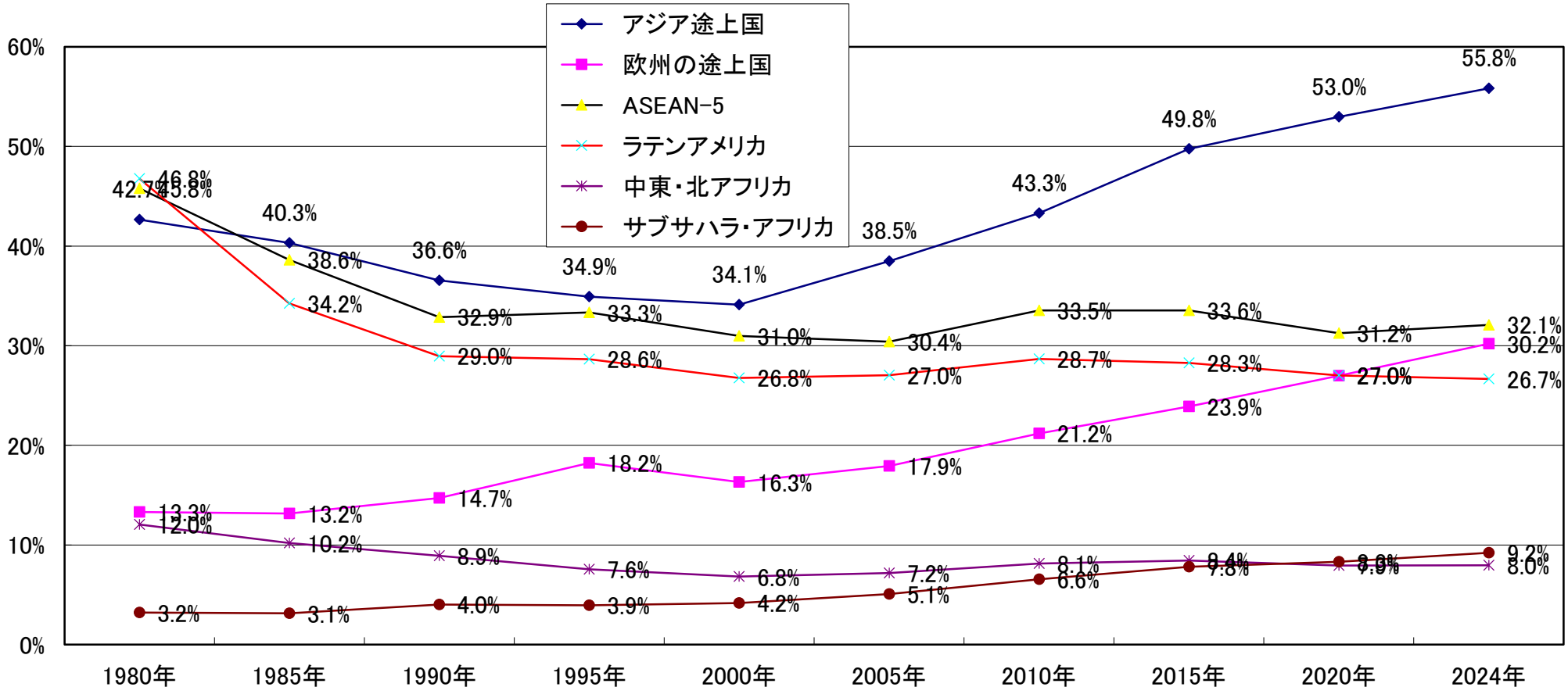
世界平均GDP/人と主要国の比較



途上国地域GDP/人の世界平均との比較

現行為替レートGDP

世界平均GDP/人と途上国GDP/人の比較

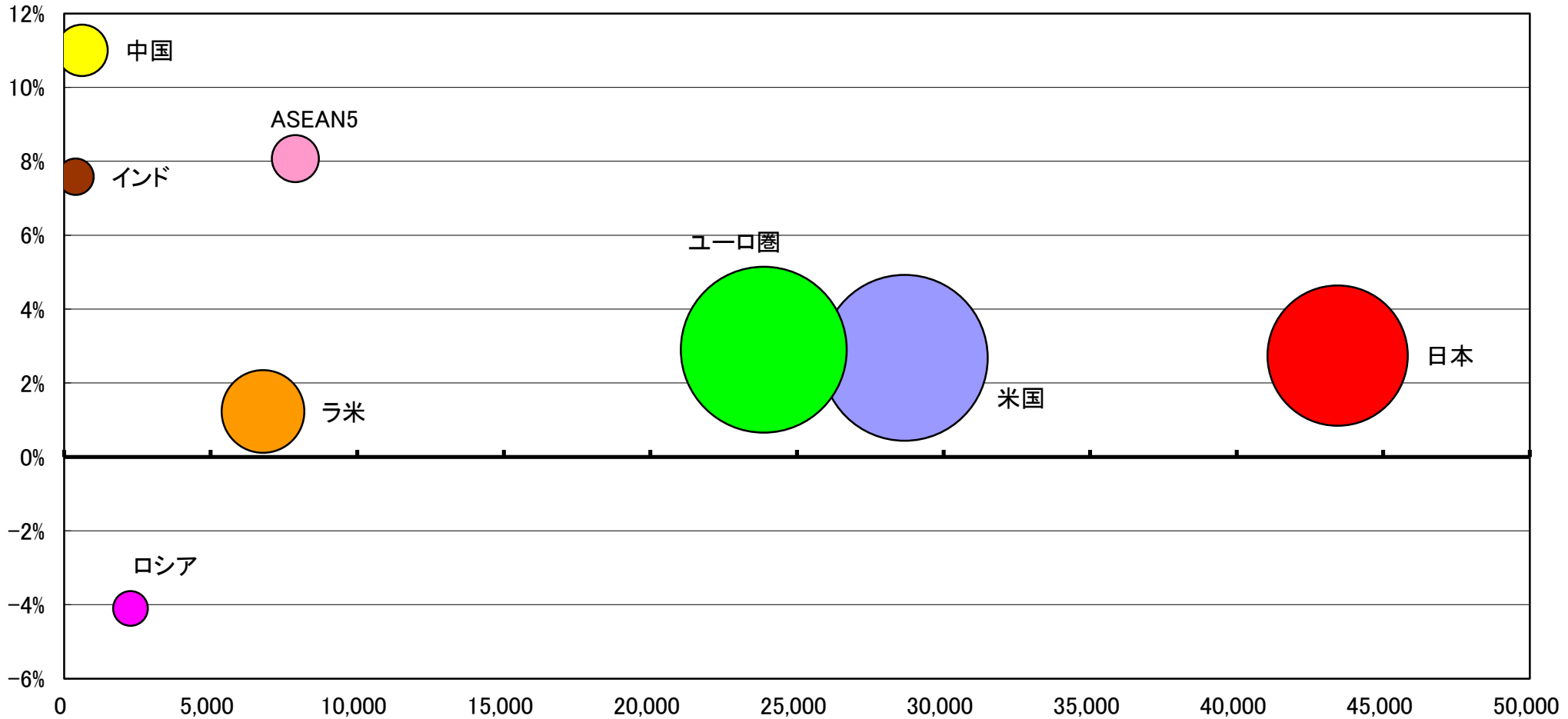


購買力平価GDP/人では、アジア途上国が世界平均の50%水準にあるが、他の地域の途上国は、まだまだ水準が低いのが現状だ。

1995年の状態 (GDP/人、GDP成長率、GDP額)

現行為替レートGDP

1995年



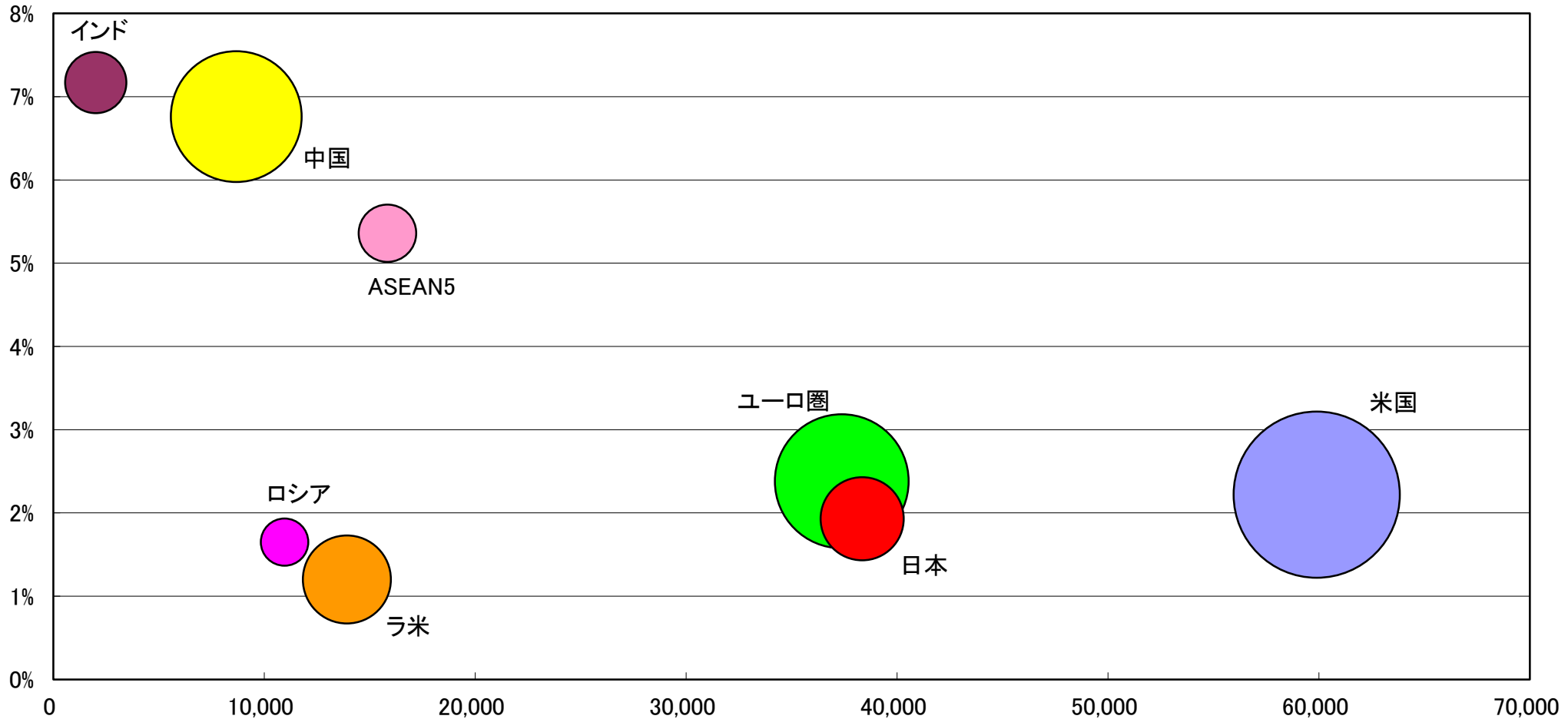
横X軸(GDP/人)、縦Y軸(GDP成長率)、○の大きさ(GDP額)

《注》ユーロ圏のGDP/人は、IMF-DBに値がなかったので、筆者が計算。

2017年の情況 (GDP/人、GDP成長率、GDP額)

現行為替レートGDP

2017年



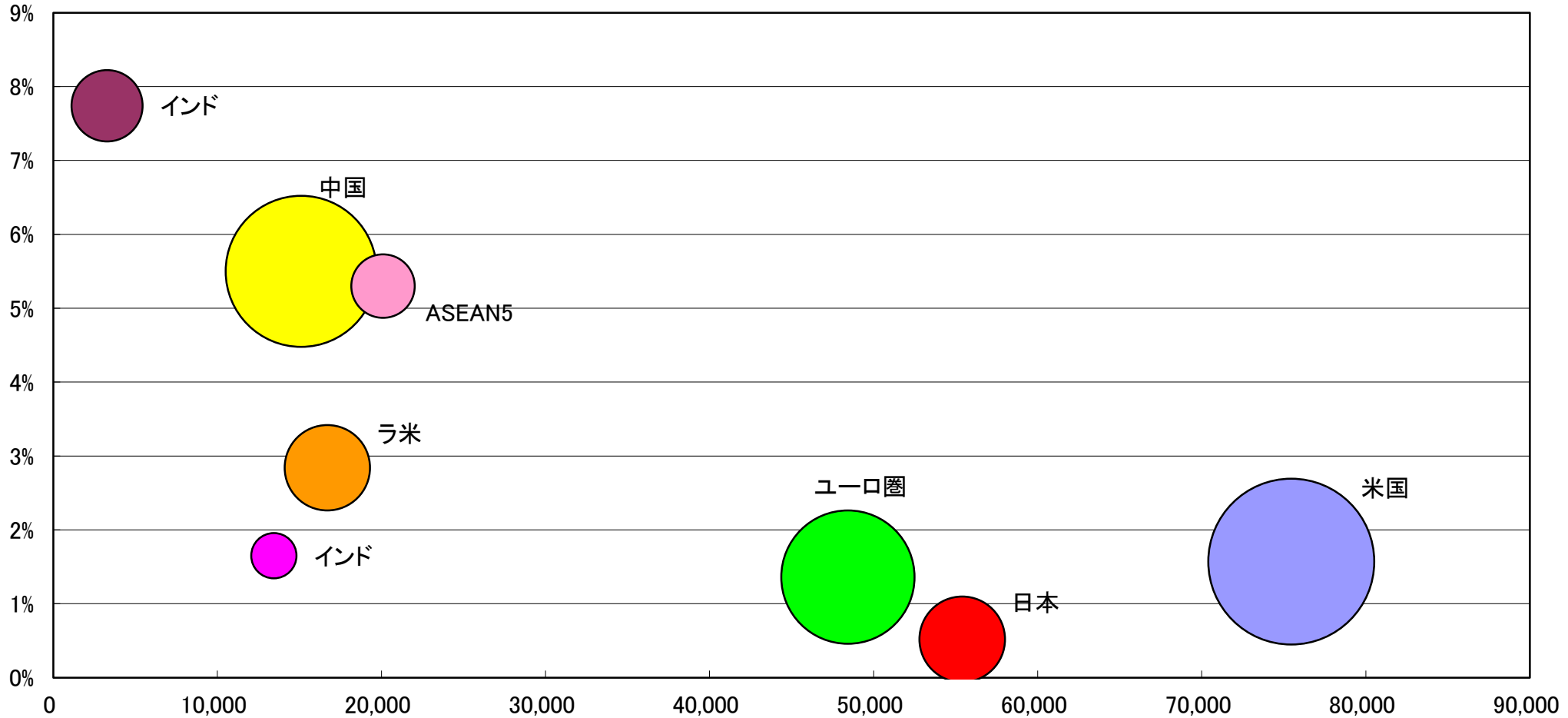
横X軸(GDP/人)、縦Y軸(GDP成長率)、Oの大きさ(GDP額)

《注》ユーロ圏のGDP/人は、IMF-DBに値がなかったので、筆者が計算。

2024年の世界（GDP/人、GDP成長率、GDP額）

現行為替レートGDP

2024年



横X軸(GDP/人)、縦Y軸(GDP成長率)、○の大きさ(GDP額)

《注》ユーロ圏のGDP/人は、IMF-DBに値がなかったなので、筆者が計算。

つぶやき

「現行為替レート」と「購買力平価」の両方で、世界の途上国と先進国の動向をまとめた。購買力平価は、各国の状況をより生活実態に近い形で把握できる指標である。購買力平価の指標の方が、途上国の状況をより良く表現できているが、基本的に両方共に同じトレンドを示している。

米中貿易戦争が燃え盛っている。購買力平価GDPですでに中国は米国を追い抜いている。まさにGDPでも途上国の時代がすぐそこまで来ている。過去の帝国の崩壊は、あっけなく発生している。ローマ帝国は、395年に東西に分裂。西ローマ帝国は、ゲルマン民族移動という環境の下476年に滅亡した。ローマ帝国は外国人にも市民権を与えるという普遍的価値により栄えた。だが五賢帝時代に領土拡張の限界を迎えた。滅亡の主因は「経済の衰退」である。最後は、ゲルマン人傭兵隊長オドアケルによって滅ぼされた。世界における経済比重を低下させ。不法移民排斥をしているトランプも似ている。アメリカ帝国主義の終焉はどのような要因でいつ発生するのだろうか？

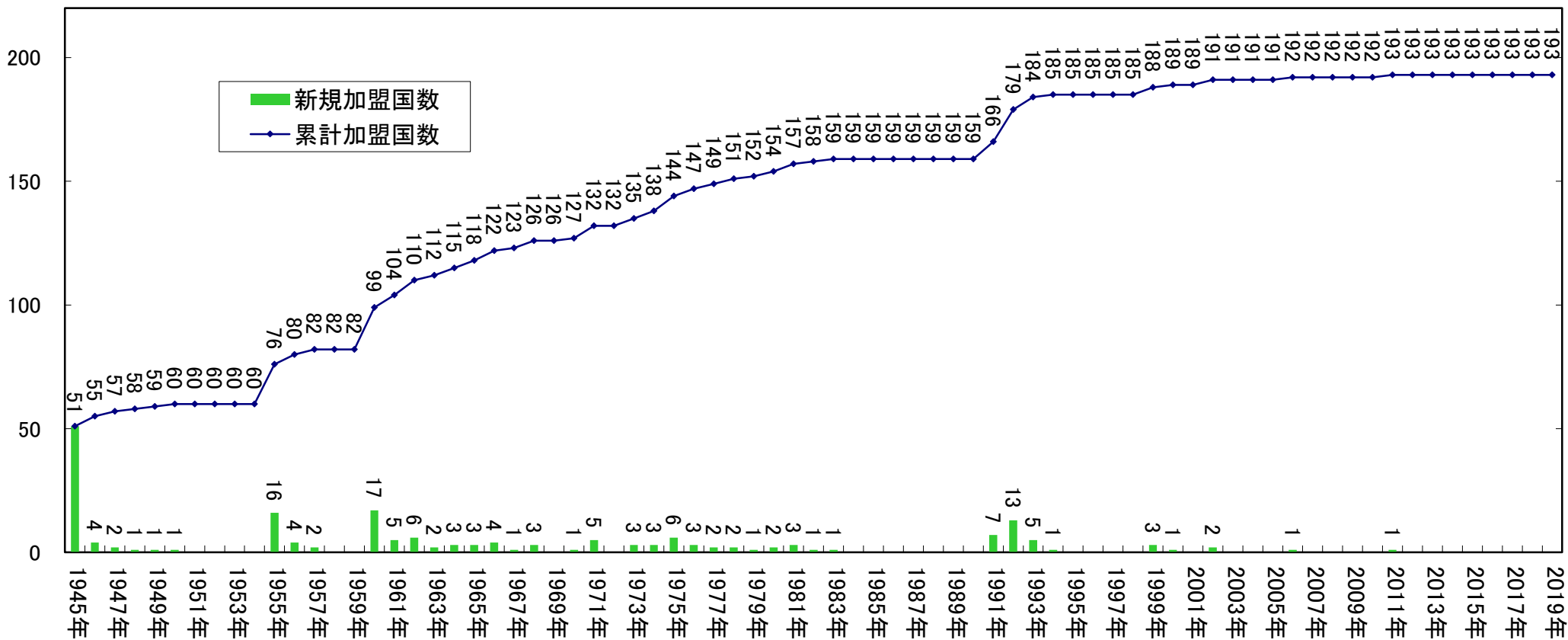
昔、ローマクラブの『成長の限界』が話題を呼んだ。世界最初のシミュレーションだった。その予測は当らなくて、現在も成長が続いている。しかし、警告の意味は現在でも通用している。世界の先進国という少数の国と人口による不等価交換貿易による途上国収奪の仕組みは続いている。しかし、途上国の人々の生活向上への願いは強く、途上国の世界経済に占める地位が高まるのが基本的なトレンドになっている。

国連加盟国数の推移

国際連盟加盟国数(63カ国)⇒国際連合加盟国数(193カ国)と約3倍に増加。

国連未加盟国は4カ国(バチカン、コソボ共和国、クック諸島、ニウエ)。それ以外に「未承認国家」が10以上存在。

国連加盟国数の推移



植民地独立

ソ連崩壊

出典: 国連広報センター(国連加盟国加盟年順序)

https://www.unic.or.jp/info/un/un_organization/member_nations/chronologicalorder/

つぶやき

アメリカは、国連を無視して、単独行動主義で様々な悪事(中東への軍事侵攻、イスラエル問題、ベネズエラ、イラン、キューバ、中国敵視政策)を行っている。国連は、国の数の力が働く場である。欧州で始めて非同盟運動に加入したベラルーシの外務省HPには、米欧がベラルーシを非難する決議案を出したのを総会の場でNAM諸国の協力を得て否決した！と成果を誇っている。

拒否権が働く安保理の世界と総会の世界では、物事を決めるルールが異なっている。核兵器廃絶問題など、重要な事柄で、今後、数の力を使った取組に注目していきたい。

まとめ

- (1) 途上国の時代が来ている。
21世紀はアジアの世紀になる。**
- (2) アメリカの横暴も、「悪あがき」という
ことが見透かされるようになってきた。**
- (3) 世界の大きなトレンドに確信をもって
行動しよう。**